

生活科学習指導案

- 1 日時(場所) 令和2年10月26日(月) 13:05~13:45 (3階ランチルーム)
- 2 学年 第1学年1組 男子9名 女子7名
自閉症・情緒障害特別支援学級 男子1名 計17名
- 3 単元名 「あきはかせになろう! ~あきとなかよし~」
本単元で育成する資質・能力 表現力
- 4 単元について

〈単元観〉

本単元は、学習指導要領の内容(5)「季節の変化と生活」に関わるものであり、「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること」に気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。」を基に単元を構成している。

本校は、山や海に囲まれ、自然豊かな環境に位置している。そのため、学校内の自然だけでなく、高見山の木々の色の変化していく様子を感じ取りやすい。本単元では、見つけた秋の自然物について、諸感覚を働かせながら観察したり、その特徴を生かして遊んだり、自分の秋衣装をつくったりする中で、自然の面白さや不思議さに気付くことができる単元である。

そのために、次のようなすべが必要となる。

○言語化のすべ

○かかわりのすべ

これらを活用することで、夏と比べて季節の変化に気付き、木の葉や木の実を使ってみんなが楽しめる遊びをつくって楽しむことができる単元だと考える。

〈児童観〉

本学級の児童は、夏には校庭で生き物を探したり、家で捕まえた虫を学校に連れてきて観察したりする等、自然に対して興味・関心をもっている児童が多い。

春の自然観察をできていないが、夏に校内の自然を観察した際には、葉がたくさん茂っていることや、緑色のアケビの実を見つけるなど夏の木の様子や生き物の様子を、観察することを通して、気付いたことを図鑑やポスターにまとめることができた。

資質・能力に関する実態

児童はこれまでに、1学期の「1つぶのたねから」では知っている知識や気付きを表現することはできている。しかし、全体で交流し新たな気付きを生み出したり次の活動に繋げたりすることはまだ不十分である。また、アサガオをどのように育てていけば良いか、これまでの栽培経験から考えて、支柱の必要性や水やり、虫を取るなどの世話の大切さにも気付いている。しかし、見つけたことを表現する際に文にして話すことに課題が見られる児童が4名いる。

〈指導観〉

指導に当たっては、校庭や学校周辺の自然の中で遊ぶことを通して、季節の変化や自然物に関する多様な気付きを持たせたい。そして、自分で見つけた自然物を用いて、友達と関わり合いながら気付きを広げたり、何ができるかや何がしたいかを興味・関心をもって考えさせたい。そのために、次の3つを工夫していく。

1つ目は、単元全体を通してグループで活動させていくことである。

一次では植物と虫の中で、特に興味を持った分野のグループ、二次では同じおもちゃを制作するグループに分かれて活動することで、夏から秋の変化や特徴に気付いたことやおもちゃをよりよくする工夫を友達にすぐに伝えられる場を設定し、伝えることの楽しさや喜びを味わえるようにする。

2つ目は、表現力を育成していくことである。

見つけた自然物を秋の宝物カードに記録し、教室に掲示し、認め合うことで友達同士で関わり合いながら見つけた秋の気付きを深めていく。グループで思考させる前に個人思考の時間を取り、一人一人に考えや思いを持たせたうえでグループ活動に入れるようにする。また、自分の考えに自信を持ちにくい児童に関しては、ヒントになる声かけをしたり、場に応じて話型を示したりするなど、発言するための手立てを用意し、発表しなくなるような環境をつくり、自分の考えに自信を持たせ、発表への自信に繋げたい。

3つ目は、他教科と関連させながら学習を進めていくことである。

国語科の「はっけんしたよ」の様子を伝える文章を書く際に本単元と並行して進めたり、算数科の繰り上がりのある「たしざん」を子供達が拾った木の実を用いて進めたりしながら、他教科の学習と関連させて進めていくことで、気付きを深めたり、できることやしたいことを見つけていけるようにする。

5 単元の目標

秋の校庭や遊び場などで散歩したり遊んだりする活動を通して、秋のものをを見つけ、それらの違いや特徴を表現することができる。

見つけた自然物を使い、工夫して遊びにつかうものを作り、工夫する面白さやよりよいものを作る楽しさを味わうことができる。

6 観点別達成目標

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">秋の様子に気付いている。おもちゃの作り方や必要なものを考え、書くことができる。	<ul style="list-style-type: none">友達の発表を聞いて、気付きを表現し、伝えることができる。自分たちが見つけた秋を工夫してまとめようとしている。おもちゃの良いところや改善点を言葉で表現できる。来た人に遊び方や作り方を説明できる。	<ul style="list-style-type: none">身近な自然に興味をもち、秋を見つけようとしている。発表に期待感をもって、発表の練習をしようとしている。

7 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

本単元では、グループを作って秋見つけを行う中で、気付きを言葉にして伝え合う・発見カードを書くなどの活動や、見つけた秋の紹介の仕方を考えて友達に紹介したり、秋のおもちゃの作り方の説明をしたりすることで表現力を育成する。

8 本時の展開

(1) 本時の目標

友達の発表を聞いて、良いところや作品のおもしろさに気付き友達に伝えることができる。

(2) 準備物

秋の作品、発表の進め方の掲示、ふりかえりの話形を示したヒントカード

(3) 学習の展開

学習活動と予想される反応	指導上の留意点 (○) と支援 (*)	評価 (評価方法)
<p>1 前時の活動を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (5)</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">あきのさくひんのいいところ見つけをしよう。</div> <p>2 2グループずつに分かれ、発表し交流する。(30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊び方、工夫したことを発表する。 ・遊びながら気付きを交流する。 ・気付きをメモする <p>3 本時の活動を振り返り、発表する。 (10)</p>	<p>○本時でグループのおすすめの秋を紹介し合うという活動内容を確認する。</p> <p>○声の大きさや目線などの話し方の確認をする。</p> <p>○友達のまねしたいなと思ったところやいいなと思ったところなど具体的な気付きの観点を提示しておく。</p> <p>○遊んでみて気付いたことをワークシートにメモし、最後に振り返れるようにする。</p> <p>○よいところや気付きを伝え合って、思ったことを振り返りに書く。 *書くことが難しい児童には話型を示したヒントカードを渡し、書き方を伝える。</p> <p>○本時の振り返りを秋祭りの計画につなげていくことを伝える。</p>	<p>資質・能力： 論理的に表現する力</p> <p>・友達の発表を聞いて、気付きを表現し、伝えることができる。 (行動観察)</p>

(4) 板書計画

10/26 あきはかせになろう！

㊦ あきのさくひんの
いいところ見つけをしよう。

はなしをきくときのポイント

- ・いいなとおもったところ
- ・まねしたいとおもったところ

はっぴょうのすすめかた

1. 1つ目のグループがはっぴょうする
2. いっしょにあそんでみて気づいたことをつたえあう。
3. 気づきメモにかく。

- ・さかみちにしているところがいいな。
- ・かざりがあってすてきだな。
- ・ぼくもつくってみたい。
- ・いい音がしたよ。

ふりかえり